

令和3年度 事業所向け放課後等デイサービス評価表

ハッピーテラス柏Ⅱ 教室

集計日:令和3年12月14日

	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
①利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		パーティションの使用や机を分けることでスペースを区切っている。一方で、当日の利用者数によってできる活動が限られることがある。危険箇所への予防具の設置や個々の利用者に合わせた職員配置をしている	教室を広くとれるよう、配置等に工夫している。低学年の子どもにとって椅子の高さがあっていないかと思割れる場面があるため、足台を増やしたり、姿勢を補助できるようなものが合ってもよいかと考える。
②職員の配置数は適切であるか	○		教室内での配置を考えると適切ではあるが、一方で事務作業が追い付かないことが多い。また配置基準とは別に、個別対応ができると望ましい利用者(集団への適応が難しい、気持ちが乱れやすい、相性が悪い同士生徒が多い等)が多い日は、あと1名いるといいと感じることがある。	利用児童の様子であったり考えた際に、配置的にあと一人欲しいと思うこともあるため、その際には柏教室と相談したり、近隣の同法人事業所に声をかけて応援を依頼するなどの様子も必要と考える。
③事業所の設備について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○	教室の中としては、可能な範囲ではできている。一方で、エレベーターが狭かったり、共有スペースの電気が切れているのが長い間放置されることがある(ビル側との兼ね合い)。現状は、利用生徒の状況的に身体的には問題ない一方で、怖がり一人でトイレに行きたがらない生徒もいる。	教室内は可能な範囲で対応できているが、エレベーターや入り口などはもう建てられているものなので直しが難しいものもある。補助が必要な際には連絡を頂ければ対応できる旨を都度伝えていくことが大事と考える。
④業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		日々の朝、終礼、定例MTG(月1回)を通じて、目標設定と振り返りのPDCAを確認し効果測定も実施している。	積極的に情報共有や振り返り等行っているが、不在者に対しては細かい部分の周知が不十分な点があるため、当日不在だった職員に対しても必ず周知することが大切である。
⑤保護者等向け評価表(アンケート)により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		定期的に保護者アンケートを実施し、改善へ繋げている。アンケートの結果については、HPへの掲載など開示も行っている。	アンケートの結果等を確認し、より良いサービスの提供ができるよう検討をしている。一方で、改善した点を伝えていけていない場面もあるため、改善した点は都度保護者様にお伝えしていくことが大切と考える。
⑥事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともにその結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		アンケートや自己評価の結果を集計し、HP等で公開している。対策や回答も準備して開示している	改善内容のお伝えが不十分である点も見受けられるため、改善した点は都度保護者様にお伝えしていくことが大切と考える。
⑦第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	第三者評価を実施していない。外部の方をお呼びして評価していただく機会は多くない。	他事業所で第三者評価を実施したとの話はあったが、その後他でやるという話などは上がっていないため、今後やるのであれば準備等を行っていきたい。
⑧職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		法人全体や事業所内でも研修、勉強会を開催している。定期的なものや、状況に応じた研修が行われている(虐待防止、保護者対応等)。	法人内・事業所内で都度研修を行い、所感の保管も行っている。都度確認していきながら、定期的に研修を行うことで、職員の意識の向上や能力向上にもつながると考えているため、今後も行っていく。
⑨アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画等を作成しているか	○		体験時等のアンケートや保護者面談、送迎時の聞き取り、生徒の様子からアセスメントを行っている。ケース会議をはじめ、サービス向上の会議は必要に応じて開催している	前システム上のアセスメントツールの使用は根付いておらず、新システムに移行されるかは不明。今後の課題として挙げられる。
⑩子供の適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		体験時等のアンケートや聞き取り、生徒の様子からアセスメントを行っている。契約が決まった際には、ご家庭にアセスメントシートの記入をお願いし、情報の共有を行っていく。また、外部で取った検査結果をお持ちいただいている。	ハッピーテラスでのアセスメントツールはあるが、活用できておらず、また各々で文章を変換して保護者に伝えないといけないため、伝え方によって回答も変わってくる恐れがあるため、要件等。
⑪活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		トレーニングで使用する教材をプログラムチームで作成している。教室内でのトレーニングは、その日のメインが考えつつ、不安なところは他のメンバーにも意見を聞いている。アプローチ手法は、日々チーム内でも確認し、工夫や精度の確認をしている。	その場で相談・検討がしやすい雰囲気であり、悩んだ際には周りが一緒に考えてくれることがある。今後もその雰囲気を保ちつつ、トレーニングに関しても研修を受けるなどしてスキルアップしていくことが必要と考える。
⑫活動プログラムが固定化されないよう工夫しているか	○		その日に来るお子さんの状態や組み合わせに応じてトレーニングを組んでいる。メイン担当者がなるべくばらけるように分担しており、アプローチ手法は日々チーム内でも確認し、工夫や精度の確認をしている。	トレーニング内容によっては準備に時間がかかるものもあるので(曜日チャレンジ含め)、全体でその日にやることを確認しながら、お互いにフォローしあうことが必要と考える。

⑬平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○		平日と土曜で提供時間も変えて運営をしている。トレーニング内容は集団はだまかには一緒だが、長期休暇に関しては、トレーニングも行いつつ、子供たちも楽しめるようなイベント形式のものもやっている。	トレーニングに関しては基本的には集団ではあるが、お子様の様子や年齢等を考慮し、プリント等の難易度を変えるなど行っているため、今後もそのことは必要と考える。
⑭子供の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて支援計画を作成しているか	○		児童によって、個別と集団を織り交ぜた計画を作成している。お子さんの今の状況についてはアセスメントを取り、また保護者様とお話をさせて頂きながら情報を共有し、計画を作成している	現在個別のみの利用者も、集団の目標が求められることがあり、課題に関しては保護者との状況把握が必要。特に個別のみの利用者に対し、適宜個別から集団へ移行していくことが今後の課題である。
⑮支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		内容や意図、職員の配置、注意点等を確認している。ヘルプ職員がいる際は、生徒の特性についても確認している。どのような流れで進め、どのあたりに指導員が付くか、利用者対応方法など伝えている。	業務の都合で職員がいなかった場合はできていないが、それ以外は事前に共有を行っている。今後も引き続き、事前にトレーニング内容の共有と利用者共有等は行っていきたいと思っている。
⑯支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い気付いた点などを共有しているか	○		その日の気になる出来事・様子や、それに対する支援・反応、保護者からの情報等について共有している。日誌を作成しながら、児童の振り返りを行っている。	その日の児童の振り返りに関しては時間が長くなってしまっているため、時間配分などを行っていきながら取り組む必要がある。
⑰日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		毎日日誌に支援内容の記入を行っている。また、確認点などがあれば日報に記入しており、他の教室の指導員などからアドバイスをもらうこともある。	支援についての記録を毎日取っている一方で、活用の仕方・文面からの捉え方(温度感までは伝えきれない)に差があることが今後の課題。
⑰定期的にモニタリングを行い、支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		3か月に1度、モニタリングを計画を更新するようにしている。コロナ禍ということもあり、あまり面談や帰宅時の振り返りができていなかったが、最近またできるようになってきている。	教室内でのモニタリングを行うタイミングの取り方が難しかったが、今後月に1度必ずモニタリングの日を作っていくことと、3か月に1回の短信と合わせての発行を行っていくことにしている。
⑱ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	○		基本的な流れとして決まっており、研修時に伝えられている。運動や工作、机上課題等適宜組み込んで、トレーニングを作成している。	ガイドラインも年度によって少しずつ変化してきているところがあるため、都度確認して内容を把握していく必要がある。
⑲障害児通所支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		基本的には、児童発達支援管理責任者や、その子供について保護者から話をよく聞いたりしている指導員が参加している。	コロナ禍ということもあり、あまり開催はされていなかったが、どの指導員が対応しても同じ話ができるように、情報の把握などをしていくことが必要である。
⑳学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○		密に連絡を取っているのではなく、必要な場合に連絡を取っている。依頼があった際に、学校への連絡を取らせていただいている状態。	学校に行かせていただいているお子さんもいれば、全く関わっていないお子さんもいるため、今後も必要があれば対応をしていく。
㉑医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○	緊急連絡表の提出を保護者の方をお願いをし、回収をしているが、現在医療的ケアが必要なお子さんはいない。協力医療機関等にも訪問を行っている。	医療的ケアが必要な子どもは受け入れていない。受け入れはないが、今後必要になったら対応していけるよう、協力医療機関とも連絡を取っておくことが必要である。
㉒就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○	小学生になってからの利用が多い。就学前からの引継ぎは、デコボコベースで運営しているハッピーテラスキッズからの場合、許可を得た上で情報の引継ぎがなされている。	系列の児童発達支援事業所や、併用で利用している放デイとは情報共有をしているが、他系列の事業所との連携は行えていない。こちらから声を上げてみてもよいかもしれないと思われる。
㉓学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○	多くが小学校・中学校の途中で課題解決のため退所をしたり、ハッピーテラス柏教室へ移行していくため、前例が多くない。	今まで小学生メインの教室で取り組んでいたため、高校を卒業して他のサービスへの移行というところは今まで取り組めていないが、今後必要があれば対応していけるよう、柏教室とも連携しておくことが必要。
㉔児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○	その機関に準ずるかわからないが、外部の方から専門的な研修も受けている。専門機関との連携は行えていないが、行う研修などには参加させていただくこともある	提携までは行えてはいないため、今後訪問していくことも必要かと考えている。
㉕放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	児童クラブを利用されているお子さんもいるが、一緒に活動などは行えていない。	学校の訪問は何件かあるが、学童等では依頼が無いため行えていない。依頼があった際には対応していく。

②⑥協議会等へ積極的に参加しているか	○		積極的と言えるかは不明ではあるが、関係者会議等の開催の連絡があったには参加をしている。	普段開催されるときには児発管や教室長が対応しているが、他の職員が出て行くことがあってもよいのではないかと考える。
②⑦日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		送迎時や、必要に応じて電話や面談により、共有をしている。また、3か月に1回、目標に対しての達成度などを記載した振り返りを送らせていただいている。	振り返りが3か月に1回になったことから、物足りなさを感じている保護者もいるかもしれないため、気になる点などがあれば保護者との連絡をすぐにとれる体制を作っていくことが重要だと考える。
②⑧保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか		○	必要なケースでは、保護者をメインに考えた面談やお話等を行っているが、明確なプログラムとしては行われていない。	今現在ベアトレを行える指導員がいない。もし保護者に対してのトレーニングは実施する場合は、資格の取得など必要であるのか検討したい。
②⑨運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時に、契約書等の読み合わせをし、そこで確認をいただいている。また、利用者負担が変更になった際には都度別紙でお渡しさせていただいている。	指導員の移動などによって変化が見られることがあるため、その際にはすぐに別紙にてお渡しし、説明をしていくことが必要。
③⑩定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		保護者からの相談があった際は、送迎時の聞き取りや電話、必要に応じて面談の機会を設ける等、支援をしている。	難しいケースの場合は、社内の有識者へ相談しているが、中々タイミングが合わないこともあるため、事前に連絡できそうなところを把握しておくことが必要と考える。
③⑪父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○	一部保護者からの希望はあるが、感染症等の状況もあり、実現できていない。	保護者会等行いたかったのだが、コロナ対策もあり実施できていないため、今後の情勢を見て再度検討していく。
③⑫子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		クレーム等があった場合には、対象の方に丁寧な説明と謝罪、またしかるべき機関への報告など、書類作成を対応する等を行っている。また、その後の職員への研修も行った。	あまりクレーム等を頂くことが無いため、気持ち的にもあまいまいになりつつある頃だと考えるため、研修等で再度意識を引き締めていきたい。
③⑬定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		月1回の郵送物の中に、通信や次月の予定を入れさせていただいている。通信の中には教室の空き状況やトレーニングの内容、推薦図書などをのせている。	空き状況に関しては日々変化するものでもあり、保護者が求めているものでもあると考えるため、定期的に発信していくことも必要である。
③⑭個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		帰宅時には鍵付きのキャビネットの中にしまっており、席を離れるときにパソコンを閉じたり書類を片付けたりなど気を付けている。また、使用しているシステムは教室でなくアクセスできない仕様になっている。	席を離れる際のパソコンや書類の扱い等についてルールを設けている。急いでいる際にはもれてしまうこともあるため、近くの席の指導員などが臨機応変に対応していくことが必要。
③⑮障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		構音障害等、発語の課題がある生徒に対し、必要に応じて筆談をしたり、焦らずに話せるよう配慮をしている。また、利用者についての話は本人がいないところで行うように気を付けている。	相手に合った伝え方や、連絡手段を考えて実施しているが、今後も電話や対面のみならず、メールやオンラインなどの様々な手段で対応していきたい。
③⑯事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○	招待できておらず、コロナ禍ということもあり、積極的には行える状況にない。また、招待できるようなイベントを実施できていない。	地域の方との交流はあまりないため、今後の様子を見て機会を作りたい。事業説明会は対面やオンラインで開催していけるため、そのようなところから交流していけたら。
③⑰緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知しているか	○		マニュアルは事業所に保管されており、また保護者に対しては掲示物を貼っている。職員間でも共有を行い、都度確認を行っている。マニュアルがあることは契約時にお伝えしている。	契約時にお伝えはしているものの、実際に手に取っていただく機会が少ないと考えるため、もっと気軽に見てもらえるような方法を取っていきよう考えている。
③⑱非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		年に2回の避難訓練を行っている。週間で行い、参加できない子供がいないようにしている。避難時に守らなければならないことや、持ち出し袋の確認などを行っている。	避難訓練を行ってはいるが、実際に避難先の小学校まで行くことが難しいことがあるため、今後は実際に小学校まで歩く等に対応していくことも検討する。
④⑩虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		教室内、また外部からの講師をお招きして研修を行っている虐待研修を定期的に行っている。当日参加できなかった職員にも後日動画にて視聴してもらうなど、全員が参加して所感を記入している。	常に来所しているお子さんの様子や、お迎えに来られている保護者様の様子をしっかりと見ていくことで、すぐに異変に気付けるようにしていくことが大事だと考えているため、全体で意識していくことが重要である。

④①どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		現在は対応するお子さんはいないが、必要がある場合は計画に記載している。必要な場合は、適切なプロセスを経て実施・解除している。また、保護者様ともしっかりと確認を取っている。	今後対応していかななくてはならないお子さんも出てくると思われるため、再度身体拘束を行う際の流れなどを職員全員で把握しておくことが必要と考えている。
④②食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		現在はコロナ禍ということもあり、食事等の提供を行っていないが、以前食べ物のイベントを行った際には、事前にアレルギー等についてもお伝えいただいて対応している。	今後再度食べ物系のイベントを行う際には、事前のアセスメントと、当日にも再度の確認、別で対応できるものの準備などをしっかりと行ってから取り組めるようにしておく。
④③ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○	ヒヤリハットが起こった際には報告書を作成し事業部に共有しているが、事例集までは作成できていない。	起こったヒヤリハットをまとめて、このようなことが起こるかもしれないという意識を常に持つておくことが必要と考えている。